

「D T T (Divided Team Teaching : 仮称)」 ＝「同一学級一教科分担制」について

1. 英語科の特性と「同一学級一教科分担制（以下D T T）」導入の背景

英語科は、1つの単元や題材の流れの中で関連し発展した内容を扱う中で、他教科と違った性質を持つものである。例えば、「Unit ○○」といった1つのまとまりの中で、次のような学習活動が必要とされると考えられる。

- ・ 言語材料（いわゆる文法事項）の習得
- ・ 本文（会話文・説明文・日記・エッセイ・資料の読み取り等）の音読・読解
- ・ 新出単語の発音、意味と用法、スペリングなどの学習
- ・ リスニング（聴き取り）の練習
- ・ 自己表現活動（自由英作文・条件英作文等）
- ・ 自身のことや教材内容に関する英問英答
- ・ 言語材料をもとにした対話練習

また、上記のような、言語材料が定まったものの他に、数時間かけて習得させるものとして次のようなものも挙げられる。これらは、「教科書に新出単語として出てくる度に覚えていく」といった方法では、学習者にとって「自分がどこまでわかっているのか」「自分にとって不完全であったり不安なものがあるのか」などを認識することが困難なため、時期を見ながらまとめて学習させたり、定期的に機会を通して学習させたりする必要があるものだと考える。

- ・ 動詞（特に不規則動詞）の変化
- ・ 形容詞・副詞（比較級・最上級）の変化
- ・ 数字や序数の言い方・書き方
- ・ 曜日・12か月などの言い方・書き方
- ・ 既習事項を総括した学習活動（リスニング・英作文・対話練習）
- ・ A L Tを含めた諸活動（投げ込み）

特に、令和3年度より英語科が取り扱う教科書は、新学習指導要領に基づき、過去例がないくらいに変容しており、各学年での言語材料の扱いや学習順序など大幅な変更に加え、小学校での外国語教育導入の影響から内容的にも確実に難易度が増している状態である。中学校英語担当教師は、これまでの自作教材や補助的な配付物をそのまま使用できず、教具の準備を含めた教材研究により一層の時間を要することになる。

その単元・題材や教師個人のやり方で差はあるものの、授業の準備、小テストの採点、提出物のチェックなど、50分の授業に関わる時間は90分～120分を要すると考えられる。週4時間で考えると360分～480分となり、そこにA L Tとの投げ込み型授業を組み入れたり、長期休業中の課題作りやチェック、成績不振者のための補習授業や再テストを含むと膨大である。これに加え、2学年を同時に担当することになれば、教科書が全て一新されたことも加味して、単純計算ではあるが、さらにその2倍の時間を費やすことになることも予想される。

このような教師の負担を取り除く目的においても、D T Tは有効であると考えられる。「働き方改革」の解釈はさまざまであるが、ここで大切なことは、「教師の負担を軽減する」ということが、「教師側立場優先の考え方であって、学習者を対象にしていない」といった誤解を生まないことである。「教師の負担を軽減する」＝「1つの教材研究に対してより多くのエネルギーを費やすことができる」なのであり、授業の質を劣化させない（学習者に対して少しでも質の高いものを提供する）ための環境づくりとなるということである。具体的な教師の持ち時間や教材研究にかかる負担の量的な比較については、後の項3(1)で言及する。

2. DTTの具体案

- (1) 1学級につき、週4回の英語のうち、教師Aが3回、教師Bが1回担当する。
- (2) 3回と1回のそれぞれの内容をどのように分担するかは、その時の学年（学習者）の様子や教科書の構成や各単元で扱う内容の特徴から柔軟に決定していく。
- (3) 2種類の英語の授業を区別するため、校内での呼称として次のようにする。
 - ・週3回の授業…「スタンダード（Standard=標準）」
 - ・週1回の授業…「エクササイズ（Exercise=練習・演習・稽古・実習）」
- (4) 春の時点で、どのように学習内容を分担するかについて、以下の例のようなものが考えられる。しかし、上記(2)の通り、年度途中でも授業の進度や学習者の定着の様子に対応しながら、その分担の仕方を適宜変更していくことも可能とする。

	スタンダード（Standard）	エクササイズ（Exercise）
例①	教師A（週3時間） ・教科書の内容と言語材料に沿った学習	教師B（週1時間） ・語彙、語句に関する学習 ・リスニング、ALT等投げ込み教材 ・英作文、プレゼン等自己表現活動
例②	教師A（週3時間） ・言語材料の定着を目指した学習 ・各単元、題材に応じた表現活動 （英作文、会話活動などを含む。）	教師B（週1時間） ・教科書本文や「Let's Read」等の読み物教材によるリーディング ・リスニング、ALT等投げ込み教材

3. DTTのメリット

- (1) 「1.」の項でも述べた通り、教師1人当たりの教材研究・教具準備の負担が軽減される。以下に、3学年5学級（計15学級）を4人の英語教師で担当する場合を例として挙げる。

①従来の方法で英語教師4名が担当した場合。

1年	1組	A	A	A	A
	2組	A	A	A	A
	3組	A	A	A	A
	4組	A	A	A	A
	5組	B	B	B	B
2年	1組	B	B	B	B
	2組	B	B	B	B
	3組	B	B	B	B
	4組	C	C	C	C
	5組	C	C	C	C
3年	1組	C	C	C	C
	2組	C	C	C	C
	3組	D	D	D	D
	4組	D	D	D	D
	5組	D	D	D	D

②DTTを1・3年で導入した場合

1年	1組	A	A	A	B
	2組	A	A	A	B
	3組	A	A	A	B
	4組	A	A	A	B
	5組	A	A	A	B
2年	1組	B	B	B	B
	2組	B	B	B	B
	3組	C	C	C	C
	4組	C	C	C	C
	5組	C	C	C	C
3年	1組	D	D	D	C
	2組	D	D	D	C
	3組	D	D	D	C
	4組	D	D	D	C
	5組	D	D	D	C

教師A	週16時間（4学級×④時間） ◎教材研究…週4種類
教師B	週16時間（1×④+3×④） ▲教材研究…週8種類
教師C	週16時間（2×④+2×④） ▲教材研究…週8種類
教師D	週12時間（3×④） ◎教材研究…週8種類

教師A	週15時間（5学級×③時間） ◎教材研究…週3種類
教師B	週13時間（2×④+5×①） ◎教材研究…週5種類
教師C	週17時間（3×④+5×①） ◎教材研究…週5種類
教師D	週15時間（5×③） ◎教材研究…週3種類

③ DTT を全学年で導入した場合

1 年	1組	A	A	A	B
	2組	A	A	A	B
	3組	A	A	A	B
	4組	A	A	A	B
	5組	A	A	A	B
2 年	1組	C	C	C	B
	2組	C	C	C	B
	3組	C	C	C	B
	4組	C	C	C	B
	5組	C	C	C	B
3 年	1組	D	D	D	B
	2組	D	D	D	B
	3組	D	D	D	B
	4組	D	D	D	B
	5組	D	D	D	B

教師A	週15時間（5学級×③時間） ◎教材研究…週3種類
教師B	週15時間（1×⑤+1×⑤+1×⑤） ◎教材研究…週3種類
教師C	週15時間（5×③） ◎教材研究…週3種類
教師D	週15時間（5×③） ◎教材研究…週3種類

【例①～③の考察】

例に挙げた3種類の担当方法からもわかるように、従来の方法である①については、一見平等に時間数が分担されているように見えるが、実際は教師Bと教師Cは毎週8種類の教材研究および教具準備をしなくてはならない。前述のように、50分の授業に約90分～120分の授業前および授業後の業務があるとするなら、教科の業務で約12時間～18時間の仕事量が課せられることになる。こうなると、実際には教師の授業づくりに対する意欲は減退し、同時にその質を高めることが困難となると危惧される。

例②は、教師Bと教師Cは2学年を中心に担当しながら各々が別の学年の授業を担当することになるが、別の学年の授業を「EXERCISE」として行うことで、授業の準備や事後の指導も含めて、週5種類つまり7時間30分～10時間の仕事量に軽減される。また、教師Aと教師Dは、「STANDARD」として3時間ではあるが、その学年の全学級で授業を行うことができ、生徒の様子なども掌握することができる。

例③は、全ての教師が週3種類の教材研究等で行うことができるが、教師Bにとっては、中心的に関わる学年生徒との関係が希薄になる可能性があり（音楽の先生などはそれに近い形で十分に授業をしていただいていることを思えば可能とも言えるが…）、同時に3学年それぞれの授業の進捗や様子に関わる打ち合わせなど煩雑となり、継続して子どもの学習の様子を観察することも困難になることが予想される。学校全体や学年での各教師の分掌などの位置づけ、常勤・非常勤などの勤務形態などの条件などを考えて可能となる場合もあり得るが、通常は実現が難しい方法であるとも言える。総括して、通常の人的配置である場合、②の方法が適する場合が多くなるように思える。

(2) 2人の教師間の教え方に差が出ない。例①はすべての学年を複数の教師が担当しているため、学習者にとって、「わかりやすい」「なじみやすい」等、自分の欲求にフィットしているかどうかなど感じ方が様々であり、クラスによって損得を感じることもある。これは、教師の力量の差ではなく、授業スタイルの違いであり、授業のテンポ、展開の順序、重点を置く活動など当然教師自身のこだわりやその教師らしさを生かすことによる「優劣関係のない差（違い）」である。学習者や保護者（人間社会の多くがそうであるが…）は、多数派や強く意見を言う側に流される傾向があるため、生徒の不満がどちらかに偏ったり片方の教師が苦しんだりすることになりがちである。DTTは、全ての学級に3時間+1時間で同じ2名の教師が配置し、異なった学習活動を行うため、「スタンダードが好き」「エクササイズが好き」という気持ちは生じて、学級ごとの不公平さ（教師が努力している限り本来は不公平ではない）を感じる雰囲気回避することができる。また、物理的な面においても、担当教師によって小テストや補習等の内容や頻度が異なるといった面も解消される。

(3) 上記3(1)の3つの例でも説明したように、5学級全ての授業を担当する（つまり、5学級全ての生徒と関わる）教師を配置することができる。学年の様子や各教師の分掌・立場などを考慮し、必要と感じた場合は有効な手段となる。

4. DTT の実際

- (1) 定期考査は、Standard の内容を約75%、Exercise の内容を約25%の割合で出題する。ただし、業務の中心は Standard の担当教師であり、Exercise の内容を考慮しながら基本的には単独で作成・採点を行い、必要に応じて Exercise 担当教師と連絡・相談等を行う。
- (2) 成績（観点別評価・5段階評定）もテストと同様の割合で合計して評価する。
- (3) 上記(1)(2)や副教材、長期休業課題に関する業務は、両教師が必要に応じて相談をするが、Standard 担当教師が中心として（主導権を持って）行う。

5. 令和3年度桔梗が丘中学校英語科のDTT

- (1) 第2学年でDTTを導入する。
- (2) 教師Bは、第1学年1学級（4時間）を担当し、第2学年5学級の Standard（各1時間）および Exercise（1時間）にTT（T2）として授業（個別補助）を行う。
- (3) 教師Cは、第2学年5学級の Standard（各3時間）を担当し、そのうち各学級各1時間を教師BとのTT（教師Cが主導）で行う。
- (4) 教師Dは、第3学年3学級（各4時間）を担当し、第2学年5学級の Exercise（各1時間）を教師BとのTT（教師Dが主導）で行う。

1年	1組	A	A	A	A		
	2組	A	A	A	A		
	3組	A	A	A	A		
	4組	A	A	A	A		
	5組	B	B	B	B		
2年	1組	C	C	C	B	D	B
	2組	C	C	C	B	D	B
	3組	C	C	C	B	D	B
	4組	C	C	C	B	D	B
	5組	C	C	C	B	D	B
3年	1組	D	D	D	D		
	2組	D	D	D	D		
	3組	D	D	D	D		

第2学年でDTTを導入

○曜日	△曜日	□曜日	☆曜日
Standard	Standard	Standard	Exercise
教師C	教師C	教師C 教師B	教師D 教師B
単 独	単 独	T 2	T 2

⇒

教師A	週16時間（4学級×④時間） ◎教材研究…週4種類
教師B	週14時間（1×④+5×②） ▲教材研究…週4種類
教師C	週15時間（5×③） ▲教材研究…週3種類
教師D	週17時間（3×④+5×①） ◎教材研究…週5種類

- (5) 令和3年度の第2学年英語科で行うDTTの具体的な内容の分担については、次のようにする。（ただし、授業の進捗や学習者の様子に応じて、年度途中で多少の変更も可とする。）

スタンダード	STANDARD	エクササイズ	EXERCISE
教師Cが週3時間・教師Bが週1時間TT （TT時は、教師Cが主導、Bが個別対応）		教師Dが週1時間・教師BがTT （教師Dが主導、Bが個別対応）	
<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料（文法事項） ～動詞・形容詞の変化などの語彙を含む ・教科書Unit○Scene 1, 2本文読解 Read and Think 1, 2本文読解 ・小テスト作成、採点 ・補習授業 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書Unit Activity, Let's Talk, Let's Listen, Let's Write, Let's Read, Stage Activity, Word Room, ・ALTとの投げ込み教材・授業 	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査作成および採点 ・成績・評価 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査内容の確認 ・成績・評価に関わる資料や情報の提供 	
<ul style="list-style-type: none"> ・副教材の採択および提出時のチェック ・長期休業課題の採択または作成、チェック 			